

生活習慣病、心臓病と左房容積係数の関連性

○上坂浩司¹⁾ 上原幸城¹⁾ 高原智幸¹⁾ 日高忠良¹⁾ 柴田剛²⁾

¹⁾宮崎市郡医師会病院心臓病センター生理検査室 ²⁾ 宮崎市郡医師会病院 循環器内科兼心臓病センター

「目的」

生活習慣病、心臓病と左房容積係数(ml/m²)の関連性について検討する。

「対象と方法」

当院の外来入院患者成人男性 196 例女性 88 例合計 284 例、平均年齢 68.7 歳を対象に経胸壁心エコー法にて心尖部二腔断面像及び四腔断面像から左房容積を算出し体表面積(BSA)で除した値から左房容積係数(biplane Modified simpson 法)を求めて、生活習慣病(高血圧症、高脂血症、糖尿病、肥満、高尿酸血症)と心臓病(虚血性疾患、心不全)それぞれについて関連性を検討した。(心房細動、肥大型心筋症、中等度以上僧帽弁閉鎖不全症患者は対象から除外)

「結果」

5 つの生活習慣病と虚血性心疾患については特に左房容積係数との関連は認めなかったが、心不全のみ有意差を認めた(p = 0.01、心不全有り 33.86ml/m² 心不全無し 29.40ml/m²)。また、高血圧症及び糖尿病を持つ患者は両方無い患者と比較して、左房容積係数が大きい傾向であった。

(p=0.07、高血圧症及び糖尿病有り 31.53ml/m² n=83 高血圧症及び糖尿病無し 28.35ml/m² n=77)

「まとめ」

心不全の患者、高血圧症と糖尿病の両方に罹患した患者は比較的左房容積が大きい傾向にあり関連性が推測される。

(参考文献)

心エコー 2009 9月号 特集 左房を知る
慢性心不全治療ガイドライン 2010年改訂版

連絡先:0985-24-9064(直通)